

免疫・ストレス応答に介入する抗癌治療

教授・榎村敦詩からのメッセージ

メカニズム解明を踏まえた新規薬剤の開発を目指しています。



キーワード

発癌、腫瘍微小環境、ストレス応答、免疫反応、がん代謝

研究の概要

キナーゼ阻害薬や抗体薬ならびに免疫療法薬によるがん治療について、今後の発展につながる知見を創出できるよう、ストレス応答や遺伝子変異を切り口に病態解明を目指します。

研究内容

癌治療は、従来からの殺細胞性抗癌剤やキナーゼ阻害薬、抗体薬に加えて免疫チェックポイント阻害薬を中心に免疫療法薬が急速に普及していますが、その効果予測や併用する薬剤の選定など課題は多く、未だ発展途上です。

また、発癌、特に炎症発癌ではサイトカイン・酸化ストレス・ER（小胞体）ストレスを介在した細胞死と再生反応を中心に、免疫反応や血管新生など腫瘍微小環境（TME）が関わります。

私たちは肝癌ならびに膵癌を中心に、ストレス応答を切り口にがん遺伝子変異を含めた分子生物学的解析により発癌メカニズムの解明に取り組んできました。最近では腫瘍免疫微小環境（TIME）ならびにがん特有の代謝変化に着目し、さらに分野を広げて新規治療ならびに予防法の開発に繋がる検討を継続しています。



今後の展望

従来からの抗癌剤と免疫療法薬について、併用療法を含めさらに発展させることを第一の目標に病態解明を行います。